

イチゴの害虫を天敵で防除する方法を普及しています

～天敵を活用した総合防除（IPM）体系の普及～

普及指導部

現在、促成イチゴ生産の多くは、高齢の農業者が担っています。このため、ハダニ類のような小さな害虫に気付くのが遅れ、大きな被害に至ってしまうことがありました。

そこで普及指導部では、ハダニ類を食べてしまう天敵・カブリダニ等を利用し、イチゴの病害虫を総合的に防ぐIPM(注)という防除体系を組み立て、現地に普及しています。

IPMの普及活動は、平成12年頃、各地に実証展示ほ場を設け、使用する天敵の種類、量や時期及び防除効果等を確認することから始まりました。当初は、天敵の使い方や効果に不安を感じている農業者も少なくなかったため、マニュアル「天敵を活用したイチゴ環境保全型農業防除暦」を作成し、地道に農業者への普及に努めてきました。



天敵を放飼する農業者

その結果、平成19年度にはマニュアルを利用して天敵等を活用している農業者の割合は約9割に達し、農業者からは「天敵のおかげでハダニ被害がなくなり、農薬散布回数も少なくて済んだ」との声が聞かれるようになりました。

表 天敵等の普及状況

資材	H16	H17	H18	H19
ハダニ類天敵	34%	72%	81%	88%
アブラムシ類天敵	16%	10%	40%	51%

平成19年度 秦野市・伊勢原市・海老名市の各生産部会で調査、集計

注：IPM…Integrated Pest Management（総合防除）

ダイズのDNA鑑定 ～津久井在来のDNAによる識別～

野菜作物研究部

お米には、「コシヒカリ」や「あきたこまち」のように様々な品種がありますが、ダイズにも様々な品種があります。

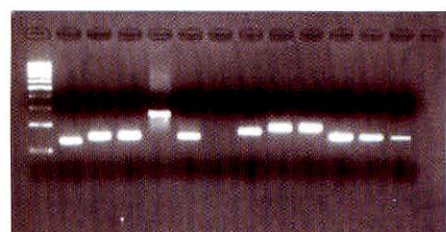
神奈川県津久井地方では、「津久井在来」という在来のダイズがつくられてきました。一部地域でのみ栽培されてきましたが、近年、食味がよいことから再注目され、県内全域に栽培が広がっています。そこで、他品種の混入を防ぎ、差別化を図るために、「津久井在来」の識別（他の品種と区別すること）に取り組んでいます。DNA鑑定を利用することで、主要なダイズ品種と「津久井在来」とを識別することができます。



津久井在来大豆の畑



津久井在来大豆



DNA鑑定